

序論) キリストの復活が大切

みなさん、おはようございます（こんにちは）。今日は教会の中で一番大切なイースター礼拝です。この礼拝をみなさんと一緒に過ごせることを心から感謝しております。

日本ではキリスト教のお祭りというと、クリスマスの方が有名ですが、実はこのイースターというお祭りは、ある意味ではクリスマスよりも大切なんです。なぜ大切かというと、イースターというお祭りは、【主】イエスキリストが十字架で死なれ、三日目に蘇ってくださったことをお祝いするお祭りで、私達クリスチャンの信仰は、このイエス様の十字架と復活にかかっているからです。

この2つがなかったら私達は、自分がキリストによって救われているとは言えないし、この2つがなかったら私達は、自分が神の子として歩んでいけるとは言えません。私達クリスチャンの救いと人生に密接に結びついているのがイエス様の十字架と復活です。だから、私達はイエス様の復活をお祝いするイースターと、このイースターの前には受難週といってイエス様の十字架を覚える礼拝をするのですが、この2つの礼拝を私達はとっても大切にしています。

とはいっても、「一度死んだ人間が復活したなんて信じられない。」という人も多いと思います。それは聖書の時代、最初の教会の時代からそうでした。クリスチャンたちは一生懸命、「イエス様が復活した！」と主張していたのですが、クリスチャンたちがそれを言えば言うほど、人々は耳を傾けなくなっていきました。ですから、多くの人が「復活を信じることができない」というのは今も昔も変わりありませんでした。

それでもなお、クリスチャンはイエス・キリストの復活を信じ、2000年以上たった今でもこのようにしてイースターをお祝いし続けています。それだけキリストの復活には重大な意味があるのです。

私達はサタンの奴隷であった)

先程お読みした。エペソ人への手紙 2章 1-10節は、聖書をあまり読んだことがない人にとっては、いまいちピンとこない内容だったかもしれません。でも、ここにはとっても大切なメッセージがあるので、今日はこの箇所を3つのポイントでご説明したいと思います。

まず、第一のポイント。1節から3節の部分です。この箇所は、私達はサタンの奴隷であった。ということを言っています。

★振内では省略

1節2節を読みます。

2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、

2:2 かつては、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

みなさん、みなさんは自分自身を完璧にコントロールすることができているでしょうか。例えば時間を管理して約束の時間をしっかり守るとか。お金を管理して決められた予算の中でやりくりするとか。できているでしょうか。私達は、そうやって自分をコントロールしながら生活をしています。でも、実際には自分が思い描いている理想の通りに自分をコントロールすることができない。ということがあります。

中でも多くの方が悩むのは、愛することができないということと、正しいことを全うできないということです。

例えば、親は赤ちゃんを完璧に愛せるかということです。赤ちゃん、特に乳幼児のころの赤ちゃんは、なかなかこっちの思う通りにしてくれません。真夜中に起きて泣くし、一生懸命あやして寝たなと思ってベットに置くとまた起きるし、なかなか思い通りになってくれない。だから、お腹を痛めた子供であったとしても、時には思う通りにならない赤ちゃんに対してイライラしてしまうことがある。愛しているし、可愛いと思っているけどもイライラしちゃう。育児の疲れがたまりすぎると愛したくても愛せなくなる。そうゆうことがあります。

それは赤ちゃんだけでなく、年老いた親に対してもそうかもしれません。聖書には「あなたの父と母を敬え」ということばがありますが、親を敬わなければいけないということがわかっているけども、年老いた親の面倒をみたり、世話をするのは、自分ではなくって他の人にやってもらいたいと思ってしまう。そうゆうことは多いと思います。

それは夫婦関係でも同じで、ご主人が会社で疲れ果ててしまったとき、お家にかえって愛する奥さんの話をゆっくり聞いてあげることができない。奥さんのほうはずっと家にいて育児で大変だったりするから、ご主人が家に帰るまでの間に、夫に話をしたいという欲求をためていたりするんですけども、肝心のご主人はそれに答えることができない。

こうやって愛したいけど、愛せない。ということがよくあります。

同じように、正しいことをしたいけど、正しいことができない。ということもよくあります。簡単な例で言えば嘘ついてはいけないということがわかっているのに嘘ついてしまうということです。

なぜ、そのように自分がやりたいと思っていることをすることができない。ということが起こるかということ、聖書は、それは私達を支配する存在がいるからだを教えています。本当は愛し合いたい。本当は正しいことを最後まで全うしたいと思ってもそれができないのには、それをできなくする霊的な支配者がいるからなのです。

そして、その支配者に支配されることで、私達は愛よりも自分の欲を優先しようとしてしまう。正しいことよりも自分の利益を優先してしまう。その結果、自由に生きているつもりが、本当は自由でないという状態になってしまいます。

そして、そのように愛することや、正しいことができないということは、罪を犯しているということになりますので、聖書はそのような私達の状態を「罪の中で死んだ者だった」というのです。

これが第一のポイントです。私達はサタンに支配され、罪の中で死んだものなのです。

愛なる神様は生かしてくださる)

第二のポイントは何かということ、そんな私達を神様は愛して生かしてくださる。ということです。

★4-5節を読んでみましょう。

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私達を愛してくださったその大きな愛のゆえに、

2:5 背きの中に死んでいた私達を、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

神様は、私達がサタンに支配され、霊的に死んだ状態にいるということを喜ばれないお方です。なぜならば、神様は私達を愛しておられるからです。

誰だって、愛している存在が死んだ状態にいることを望む人はいないと思います。神様も同じで、サタンに支配されてままならない人生を歩んでいる私達が、霊的に死んだ状態のままいるのを望まれません。

だから、神様は私達を霊的によみがえらせるために一つのことをされました。そ

これはイエス様を罪を持つ私達の身代わりとして十字架の上で殺して、イエス様を蘇らせることで、霊的に死んだ私達も霊的に蘇ることができるようにする。ということです。

だから、キリストの蘇りというのは、2000年前イエス様の体が蘇ったということだけじゃなくって、私達も霊的にイエス様と一緒に蘇り、神様の子供として生きるようにされた。とういことを意味しているのです。

★6節にはこのように書かれています。

2:6 神はまた、キリスト・イエスにあつて、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。

天上に座る。というのは、本当の自由を与えてくれる神様の国の住人になるということです。

私達が、キリストによって蘇って神の子とされると、死んだ後に神の国にいくだけじゃなくって、今の人生においても神の国で生きることができるのです。そして、神の国で生きようになると、私達は本当の自由を手に入れることができます。

だから、教会ではキリストの復活をお祝いするイースターをとっても大切にしています。

それは神様からのプレゼントである)

3つ目のポイントになりますが、問題は、キリストと一緒に蘇るためにはどうしたらいいか。ということです。どうしたらいいのでしょうか？立派が必要でしょうか。大量の献金が必要でしょうか？ いいえ。ただ信じるだけ。別の言い方をすると受け入れるだけです。これが事実なんだと認めるだけ。それだけで神様は私達をキリストと共に生き返らせてくださいます。

この4月には、よくかかってくる電話があります。それはどんな電話かというと、お宅の電話の回線を光回線にしませんか？という電話だったり、こっちの会社に電話回線を変えると今よりもっと安くなりますよ。という電話です。みなさんのところにもそのような電話がきていないのでしょうか。そして、そうゆう電話はたいてい、工事費は無料です。といいます。

でも、実際にお問い合わせしてみると、工事費を取られてしまったり、前より高くなってしまったりした。という話をよく聞きます。こうゆう話があるので、無料でもらえるものというのは、怪しいという印象があります。

でも、キリストといっしょによみがえって、神の子となれるという無料のプレゼントは、怪しいものではありません。これは神様の愛のあらわれです。

では、なんで神様が、私達に無料のプレゼントしてくださったかということ、私達が「ほらこんなに私達は偉いのだ！」と誇ることがないためです。

★8-9 節を読んでみましょう。

2:8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることをのいたためです。

だから、私たちクリスチャンは自分のことを誇ることはできません。私達自体は救われるに値するようなことを何もできていないからです。

私達に新しい人生を与える救いは、誰でも受け取れる神様からのプレゼントです。ただ、このことを素直に信じますとって受け入れるだけで、私達を不自由な状態にしている支配から解放され、神様の子として新しい人生を歩むことができます。

中村医師の話)

最後に、このプレゼントを受け取ってキリストと一緒に蘇ることで人生変えられ、大きな働きをした人の話をしたいと思います。みなさん、この人を知っていますか？

この人は、中村 哲（なかむら てつ）というお医者さんです。

彼は最初、パキスタンとアフガニスタンで20年以上、ハンセン病の治療のための医療活動をしてきました。しかし、パキスタン政府の圧力によって彼はパキスタンでは活動できなくなり、アフガニスタンを中心に医療活動をするようになりました。

彼は人々の病気が治るために一生懸命働きました。でも、アフガニスタンには、きれいな水があまりありませんでした。いや、そもそも水自体が無いところが多かったのです。だから彼は、「ほとんどの病気は十分な食べ物と清潔な飲料水があればかからない。飢えや渇きというのは薬では治せない」といことに気づいて、アフガニスタンで頻発する干ばつに対処するために、なんと約1600もの井戸を掘り、クナール川から全長25.5kmの灌漑（かんがい）用水路を建設し、アフガニスタンの65万人以上のいのちをすくいました。すごいですよ。彼がやった仕事によってアフガニスタンの荒野が緑化したのです。水が通って、緑が芽吹いて、食料が生み出せるようになったのです。

しかし、残念ながら彼はそのアフガニスタンの武装グループに殺されてしまいま

した。

なぜ彼は、そのような自分に縁もゆかりもない用なパキスタンやアフガニスタンにいて、いのちがけで現地の人のために働きをすることができたのでしょうか。それは彼がイエスキリストによって救われて、キリストによって神の子としてよみがえった人だからです。神の子として人々を愛する自由をもっていたから彼は自由に人々を愛して仕えることができたのです。

日本の報道では、彼がクリスチャンだということをほとんど報道していません。でも彼を派遣したのは日本キリスト教 海外医療協力協会というところです。つまり、彼はキリスト教の精神にのっとってパキスタンで医療活動をし、アフガニスタンで多くの井戸を掘り、灌漑をし、荒れ地を緑に変えたのです。

みなさん、アフガニスタンというのはキリスト教国ではありません。イスラム国なんです。イスラムの国でキリスト教の人が活動するというのは危ないのです。彼がなぜ殺されたのか、犯人は誰なのかわかっていません。もしかしたら彼が殺された原因のひとつに宗教的な要因もあったかもしれません。

でも、彼は危険がともなうなかで、ずっとそこで人々を救うための活動をした。これはまさに愛だし、キリストと共によみがえったからこそ、できたことだと私は思います。

主イエスキリストによる復活は、私達に愛のわざをさせてくださるのです。だから、私達はイースターを心からお祝いしています。

みなさんはままたらない自分を感じていないでしょうか。自分の中に不自由な部分がないでしょうか。自分を支配するものを感じていないでしょうか。キリストはみなさんを、そこから解放し、新しい命を与えてくださるお方です。

ぜひ、その恵みを受け取ってほしいと思います。